第２回　倶知安町景観計画・緑の基本計画検討会議
議事概要

◎日　時	令和２年８月５日（水）　午後１時３０分～午後５時００分
◎場　所	風土館及び町内（フィールドワーク）
◎出席者	検討会議：矢吹座長、高岸委員、山田委員、坂井委員（途中退席）、辻井委員、大萱委員、古谷委員、佐藤委員、カー委員（途中退席）、峠ヶ委員、岩佐委員
	事務局：まちづくり新幹線課　福坂課長、遠藤景観室長、星加景観係長、八田主事
	コンサルタント会社：㈱KITABA　窪田、百瀬、石田、荒谷

１．開会

２．あいさつ

（矢吹座長）

※省略

３．フィールドワーク

町内の各ポイントを巡り、矢吹座長らによる解説を交えながら倶知安町の現状や景観特性を把握した。

【フィールドワークのルート】

＜郊　外＞国道276号（八幡ビューポイントパーキング・百年の森）→町道西3号→国道393号（扶桑・出雲・瑞穂）

＜市街地＞六郷鉄道記念公園・旧白樺団地分譲地→富士見橋→中央公園・どんぐり公園→尻別川リバーパーク→しらゆき公園・しらゆき団地→旭ケ丘公園山頂

①　八幡ビューポイントパーキング（国道 276 号）

（古谷委員）

・ここは羊蹄山が美しく見える場所であるため、参加者同士で草刈りをしたりデッキを置いたり、遊び気分で実施してきたことだ。自分たちとしては当たり前でその方が良いと思い取り組んできたことだった。特に気負ってやったわけではなく、こうしてやろうという思いもなく、ただみんなとジンギスカンを食べたりするのが楽しいということでやったことだ。

・その取り組みの過程で、パーキングから羊蹄山の眺望方向に見えていた電柱が老朽化で更新されるということで、北電と国と長い時間の協議の末に、歩道側に移設され、このことが大変評価されてシーニックバイウェイのルートで最優秀賞を頂いた。

・景観に関して、何が良いかは人それぞれで違うものだ。倶知安町の人が来て、この場所がすごいと言う人はあまりいない。倶知安町の人は、自分の家から見える羊蹄山が一番良いと言っている。

・果たして人工的に作られたものが本当に感銘をうけるのか疑問がある。いつも思うが、景観は他の人

が来て評価されるものではないし、一過性の人たちの意見で地域をどうこうするということではない。自分の景観に対する思いがあれば良いと思う。

・結論をいうと景観をどうしようというのはおこがましい話だ。ここからの 1～2 年の中で、断片的に景観を考えられる話ではない。今コンクリートを打っても、20～30 年したら自然になる。江ノ島に初めて行ったときに驚いた。コンクリート工事を行っていて、何が自然だと思ったが 20～30 年後行ったら、自然の中になじんでいた。一時を捉えて評価するのもおかしい。

・倶登山川のほとりで自分は生まれた。小学 3 年の頃、ものすごい台風が来て、永喜橋が流されるところを見た。橋げたに木がぶつかり、一瞬のうちに崩壊した。それから遠回りしないと学校に行けなかった。今はコンクリートの橋ができている。

・とんでもない目にあったが、つくづく自然との共生の事を思った。今どのような状況か行って見てもらいたかったが、河畔林で川幅がとても狭い。もし今洪水になったら、すぐにひどいことになる。しかし地域の人は「命が大事なので河畔林を切ってくれ」と言っているし私も切るべきだと思うが、他の人は「切ってはだめ」という。地元に住んでこれから子どもを育てて、飯を食べていく人間にしてみたら、河畔林を切っていないから水害になれば、橋が流され、流木がすごくなることがわかっている。

・第一回目の会議を聞いていて、考え違いをしていないかと思った。これから景観を考えていくにあたって、トップがこの地域はこうあるべきだとしてやっていくべきだ。今どのようなことを考えても正しいことはあるか。景観に関してこれが正しい、これが間違いであるということはありえない。

・駅前景観は何十年と培ってきた歴史である。自分にとってはあれが好きである。昔の景観も好きである。びっしり家が立ち並んでいて、シャッターが降りている様子も好きだ。これは歴史だ。それをどうこうするといったことや、統一するということは、おこがましい。

・ひらふエリアは、あれはあれで好きだ。何もなかったところがあのようになって、外国人がおり国際的で、地域の誇りである。

・そういうことに対して、地域の人のいろんな考え方がある。今回のメンバーも半分は倶知安外の人である。そういう人たちが倶知安について何を言うのかと思っている。突き詰めればコロナと同様に経済と生命のバランスということではないか。だからこのことに結論が出るわけがない。

・今回 2 年間、景観検討委員として、どういうポジションでいるべきか考えている。

・私たちは楽しんでやっている、人間関係を楽しんでいる。景観は利益が絡んで、ああでもないこうでもないということなら、面白くない。

・今の倶知安のまちなみが大好きだ。他の町村に比べれば、ずっと立派だ。他の町村は（電柱を）撤去したくても撤去出来ない。恵まれたまちだと感じる。後志で言えば寿都と倶知安くらいで、他の町村はこういうことを考えられないくらい余裕のない感じがする。まだ私たちは幸せだ。

②　百年の森公園

（矢吹座長）

・かつてここは営林署の苗畑の後だった。そこの奥の方に、山に植える木の苗植えを育て、いろいろな樹種の実験をしていた。

・閉鎖にともなって公園の整備計画があり、すでにその時青写真ができていて、お決まりの青写真だった。散策路や東屋があり、ぐ

るぐる回って楽しむという計画だった。

・それを当時の町長の宮下さんから「予算をつけたから、なんとか検討しろ」ということで、当時の役場内の担当者たちと打ち合わせをし、至った結論は、「東屋も散策路も要らないから、このままおいておこう」ということだった。当時の行政には、せっかく予算をつけたのに何を考えているのだ！と言われたが、開拓時代の姿を留めていたのはここだけであった。この公園の奥を天気の良いときに覗いてみてほしい。

・ヤチダモがあり、湿地帯で、どうやって整備するかを考えた。そして整備ではなくて、みんなが通る脇の雑草や下草は刈るという整え方をした。外来種はどんどん入ってくるため、どうしようもない。羊蹄山の山頂でもどこでも、外来種が入っているから、それをひとつひとつ抜いていくと、とんでもないことになるので、目に見えているところはもう取ってしまおう、あとはそのままの状態で、行きましょうということで今日まで来ている。

・現在管理人をやっている宮崎守さんは今から 30 年近く前の当初からこの公園を管理しており、全体を知り尽くしている。彼は昔造園の関係の仕事をしていたから、すごく詳しい。これはだめ、これは良いとかではなく、樹種を全部調べていって、残すものは残しましょうとなった。

・苗畑の奥が、縄文時代の後期の初め、4000 年前の遺跡だ。矢じりなど 200～300 点出土しており、形になったものが出ている。そういうところで、4～5000 年前から人が住み続けて、共有しながら、生きてきたと思う。そういうところがこの街に残っていて、こういう状態になっている。

・そして最近は、17 年前からはホタルが結構見られて、自生するようになった。ホタルが倶知安町の何箇所かに自生している。最も自生しているところは、自衛隊の駐屯地である。なかなか入れないから、そこから幼虫を頂いてきて、中学校の跡に放った。

・当時から整備されずに来たということが、今の姿である。あの当時整備されていたらどうなっていたかは想像できない。残っているものを残し、行政の余計なお金をかけないということが正解だった気がする。これからどうなるかはわからないが、皆さんの考え次第だと思う。ただ、別の構想もあった。少し先にいくと、神社と鎮守の森がある。鎮守の森がポツンポツンとあるが、それらが繋がっていき、一つの森になればいいという想いもあった。一方で、手を入れすぎても良くない。いろいろな方が利用されて、楽しんでくれれば良い。こういうところがあるということで、ほっとする人がいる。変わらないものに価値がある。

③　町道西３号～国道３９３号（扶桑・出雲・瑞穂）　※移動する車内から確認

＜町道西３号＞

＜国道 393 号（出雲）＞

＜国道 393 号（瑞穂）＞

④　六郷鉄道記念公園

（矢吹座長）

・ここは旧国鉄胆振線（倶知安・伊達紋別間）の六郷駅が設置されていた場所である。ここは駅前のメインストリートである。近くの 276 号線から基線通りまでが一大商店街だった。古い地図を見ると、芝居小屋や飲み屋、宿屋があり市街地を形成していた。東にある寒別当時は、倶知安・京極間までの路線だった。当時住んでいた人にとっては大動脈だった。そして函館線に繋がっていく。

・道路と一緒になって、人も物も文化も運ばれていった。そこの車窓から見た風景がみんなの気持ちの中に残っている。

・画家の小川原脩さんは神社の近くに生まれた。その当時から胆振線があったはずだ。ところが小川原先生はその距離を歩いた。列車に乗って帰ったら怒られた。

・この路線は個人の方がものすごく努力した。中村与三松さんである。会社はなくなったが、ソフィア中村という会社の会長であり、中村さんの出身地がここである。中村与三松さんのおかげで、胆振線が喜茂別から伊達紋別まで行くことになった。相当お金を出しあって、鉄道工事については会社が投資をした。

・線路や蒸気機関車がそのまま保全されている。授業の一環として子どもたちが、掃除やいろんなことをして、保存し公園を使って頂こうということで、それで一つの形になっている。

⑤　旧白樺団地分譲地付近（くっちゃん型住宅とは）

（佐藤委員）

・皆さんのお手元にくっちゃん型住宅とパンフレット、ガイドラインがあると思うが、これを作る段階で建築士会と役場と共同で、くっちゃん型住宅とはどういうものが良いか、今の時代にあった住宅の形を考えようということになった。

・考え始めた当時は町で高床式の住宅を推奨した HOPE 計画を作り、１階部分が雪に埋まっても良いように、上の２階部分が通常の１階とし、この建物の１階は物置や車庫として使い、雪の中でも生活できるという組み方だった。

・これから見ていただく「くっちゃん型住宅」はそうではなく、雪も楽しまなきゃならない。わざわざ高い床にしないで、雪も楽しむような形とし、住宅の中に車庫を取り込む形、冬も夏も楽しく、雪の中でも外でも遊べるような住宅で、管理のしやすい、断熱性能のいい、自然に調和した家を作ろうという考えである。

・このあと皆さんに見てもらうが、自然のもの木材、石などを使おうということで、できるだけ家の周りに緑を多くした形になっている。メンバーがいろいろ考えて設計しているものもあるので、じっくり歩きながら見ていただければと思う。

⑥　中央公園・どんぐり公園　※移動する車内から状況を確認

＜中央公園＞

＜どんぐり公園＞

⑦　尻別川リバーパーク

（星加係長）

・尻別川は北海道の管理河川であるが、河川敷を有効活用するため、倶知安町で公園整備し、管理している。
・河川敷に沿って国道５号の倶知安橋の西から寒別にかけて約10km 細い道がずっと続いており、サイクリングロードとなっている。
・平成２年から事業を始めて平成６年まで、足掛け５年位で整備したという経過がある。
・この公園は、今回のアンケートでは町民に身近に親しまれている様子である。ジョギングや散歩など日頃使っている方も多い。
・河畔林で見えづらいが、すぐそばに河川が流れており、先程ラフティングをしている子どもたちの声も聞こえた。

⑧　しらゆき公園　　※降雨のため、車内から状況を確認

・西小学校に近く、幼稚園児から小学生までの子ども遊び場となっている。
・遊具の配置や広場の大きさなどがちょうどよい感じである。

⑨　しらゆき分譲地　※降雨のため、車内から状況を確認

・今の「くっちゃん型住宅」の前に、高床式住宅を推奨していた時の分譲地である。
・玄関が２階にある

⑩　旭ケ丘公園山頂

（矢吹座長）

・最初に古谷さんが、自分たちは羊蹄山の見える電線の移設を自分たちが良くしたいという思いからと仰っていたのが、とても印象深く感じた。最終は残念な天気であるが、羊蹄山があることを想像して見てほしい。

・ここが倶知安の市街地から東に向かっていくところで、倶知安町の地形が良く分かる場所である。以前に地質や自然地理の人たちと来た時に、ここが一番説明しやすいと言われたもので、以降、子どもたちを連れてきて、説明している。

・本来であれば右手に羊蹄山が見える。羊蹄山から南北真っ二つにこの街を切ったとするならば、羊蹄山がこういう風に見える。

・そこからすそ野をたどって行くと、河岸段丘がある。河岸段丘とは川によって作られた地形だが、そこから尻別川で落ちて、また河岸段丘があり、八幡地区の水田地区が広がっている。あそこは低い河岸段丘とイメージして欲しい。

・役場のところが標高 170mであり、風土館がだいたい 30mくらい上がった標高 200mで段丘になっており、よほどのことがない限り、水はつかない。そこからさらに北の農村地帯へ向かって段丘になっており、赤井川方面に向かって「山地地形」になっている。

・羊蹄山があって、河岸段丘があって、山地の地形があるというのが、羊蹄山麓の典型的な地形である。

・尻別川はご存知の通り、暴れ川である。ものすごいくねくね曲がって、これから風土館に戻って古い航空写真を見てもらうが、今の白木建設工業のところを見ると良く分かる。川の跡がいたるところにある。河川改修が良いか悪いかという話はしない。やはりやるべきことはやらないといけない。護岸を作って、流れを速くして、できるだけ水を速く流すということもある。一部は自然状態を残すという方法もやっている。

・こういう風に川をストレートにしたところに、古い地図を見ると川の跡が残っている。川の跡が残っている所は、植生が違ってくる。

・河原の定義の仕方があり、河原には石があり、護岸していても河原という。今この街で河原の地形を保っているのは、ヌプリカンベツ川しかないと河川の専門の方が仰っていた。熊がいっぱい出るので気をつけないといけないが、河原の地形である。

・6 千年から 8 千年前の縄文時代の前期かもう少し古い時代に、羊蹄山の土石流によって、川がせき止められ、川が押し出される。そこが「大曲」という地名で残っている。ひらふ地区だとサッカー場が整備されて、その向こうがその場所である。

・その証拠として赤水、鉄分を含んだ水であるが、きれいな水も赤水もでる。何十年も年百年も水の下があったという証拠らしい。

・4 千年から 5 千年前の縄文の遺跡を見ると標高が 180mより低いところには見当たらない。つまり、180mから 200mのところに数千年前の人たちが住む場所を確保して、集落を作っていたという証拠である。

・もっと寒い時代の 1 万 5 ～ 6 千年前、字峠下に旧石器時代に人間が住んでいた。その遺跡がある。そ

の場所よりも標高の低いところに遺跡がない。今日回ってきた八幡から百年の森にかけて坂になっていたが、あのあたりの標高をたどって行くとだいたい250mから300mであり、今の花園と同じくらいである。170m以下の標高のところは少なくとも倶知安町に限って言えば、縄文時代の人が住んだ形跡はない。

・アパートや住宅を立てるときに、よく埋蔵文化財の事前協議に来るが、市街地の場合は「無い」とはっきり言える。掘れば掘るほど、粘土交じりの川原石が出てくる。

・旧河川からは流木がたくさんでる。特に南20条や30条の辺りに行くと、大変大きな流木が出るため、「ここに家を建ててはだめか」と聞かれることがしばしばある。

・倶知安の市街地というのは、河岸段丘の低いところに形成されている。ここから真っ直ぐ東に碁盤の目のように道路が伸びている。一部斜めになっているところがあるが、地形によって道路が制限されている。

・先ほど「さくら公園」の前を通ってきたが、明治25年に最初に入った人たちが、仮小屋をつくったのがあの辺りである。ところがあの辺りは湿地帯で畑に全く向いていない土地だということで、出雲あたりから開拓が始まり、5、6年経って、ようやく羊蹄山の姿が見えたという逸話が伝わっている。

・今の市街地が作られていったのは、鉄道ができて、道路ができてと人々の生活の拠点ができるということだ。今の国道276号線のある道路が開拓から4から5年後にでき、停車場通りが明治37年に鉄道が開通したあとにできた。

・人が住んでいるということは、昔の人たちが残していったものだ。じめじめしていて畑にならないようなところなどに、自分たちが関わることがないような土地として、緑がどんどん残っていく。だからグリーンベルトができていく。それを断ち切っても良いが、いずれまた繋いでいかなければならない。市街地と緑が良いバランスである。

・200万の人口の札幌市をとりまく周辺に倶知安より熊の出没するところが多い。熊と出会うことが、札幌は多い。だから自然がいうことではないが、自然と人間が住むところのバランスを誰がとるかというと人間しかいない。

・だから最初に古谷委員が仰ったように、心に感じるものと視覚に感じるものといろんな要素が入り混じって景観というイメージはできると、私は思っている。

・私は30数年前に函館本線で札幌から来たときに、これ（旭ケ丘のジャンプ台のこと）はなんだろうと思った。私が育った福島県にはジャンプ台がなかったので異質に見えた。あるとき、JRのホームから見えるジャンプ台について、関西から観光に来た若い女性3人組が「巨大な滑り台だ」と言っていたの印象的だった。また、役場の担当時代に業者が来て相当なお金を出すから譲ってくれと言われたので、そっくりあげようかと思ったが、これも一つの歴史的景観の一つになるのではないかと思った。後にきちんと整備すれば残ってくれる気がする。アンバランスなように見えて、バランスがとれている。

・地形というものはいずれ変わるはずである。山が崩れる、噴火する、川が変わるということがあるが、今の状態を記憶に留めておかないといけない。それからどうするかということを、次の世代の人たちが考える余地を残しておかないといけない。

・天気の時に見たら、ニセコの山が背景に見えて、地形がよく分かる。地形が分かるということは、土地の利用の仕方が良く分かるということである。あるところは農村風景がしっかりしている、住環

境がしっかりしている、手をつけたところとそうではないところのバランスがうまくとれているというやり方である。それが良いかどうかは判断できない。

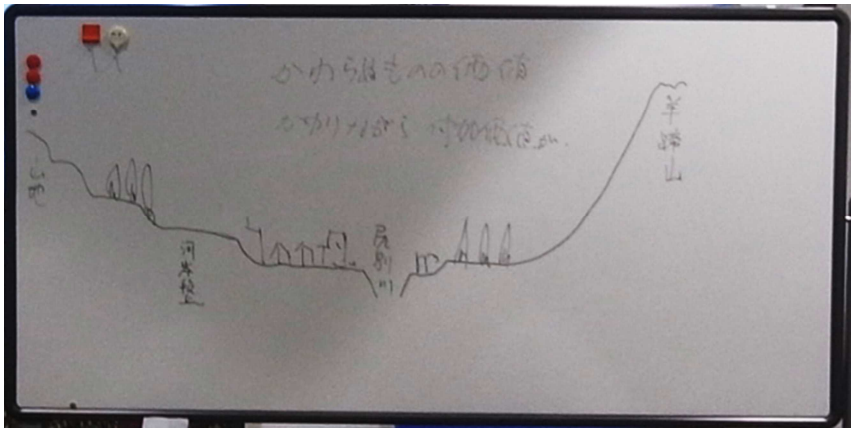
・この後風土館に戻って、見てきたところや感じたところを考えて出して頂くという風にしたい。この雰囲気を持ち帰って 30 分程度お話したい。晴れた日にまた来て欲しい。

４．意見交換

（矢吹座長）

- 鉄道や道路の基点があったところからまちづくりは始まった。
- 明治 30 年には停車場通りは存在しなかった。
- 倶知安の市街地の建築物（飲食店含む）は以前と比べると 10 倍 20 倍に増えているが、昭和初めの地図をみると、六郷の市街地は今より建物などが密集している。自分たちの生活用品を加工するためのまちづくりをしていたと思われる。
- 当時は、手付かずのところが多く、現在でも残っている場所がある。空き地はさらに存在する。当時はひとつの区画の中に、公園が大小規模で点在していた。
- 自分も関わっていた小川原脩記念美術館の基本設計のコンセプトを考える際に、市街地からここへ誘導するために“緑”でつなぐ策をしっかり構成せず、「状況に見合ったものとして考えていきましょう」というファジーな状態で進み、うまくいったような気になってしまった。芸術の道などを勝手に作ったが、最後には構想も残っていなかったように思う。「緑があるから行こう」ということにはならなかった。
- ひとつの通りや街路にもストーリーがあるように、施設同士をつないでいく道すがら、残っているものを付け加えたり削ったりしつつ、そこからまたつないでいくやり方がある。
- それを踏まえて写真を見ると、倶知安町の中ではひらふ地区はまだ若いと言える。第三、あるいは第四世代である。スキー場ができてから発展していった。さらに開発が進んでいくことが予想される。そのため、新しい写真や将来像などを現在の写真の隣に置いたときに、見た目がどう変化したのかを考えなくてはならない。
- 私たちは 2 年間で何ができるか。おそらく、「切り口はこうだ」という話しかできないような気がする。しかし、最初からそのように意識していると、しりすぼみになることが予想される。そのため、本日のフィールドワークで見た中で、印象的だったところ、意見交換ではここはなんとかしなきゃいけない、ここは良い、何も感じなかったなど、自由に意見がほしい。

【矢吹座長による倶知安の地形模式図】



- 羊蹄山のすそ野は、今後50年くらいで変わってしまうと思う。本来であればこれから 10 年先も 20 年先も 50

年先も現在の状態（模式図のような）が続いていくと思うが、あまりいじると、水脈を切ってしまうおそれがある。

- 余談として、温泉がどんどん少なくなってきているという話を聞く。温泉が枯渇してくるという問題も現実に存在している。火山地帯ならではの問題である。
- 河岸段丘から羊蹄山、山地という地形のあり方の中に、なにかしらの大切な課題があるのかもしれない。歴史的なものとして、この状態でよいのかと考える必要がある。
- それぞれの考えがあるため、これらの意見を集約して結論を出すことはできない。
- （床にある）平成 13 年（20 年近く前）の航空写真と今を比べると、羊蹄山の姿は変わらないが、山登りに行き中身を調べると、相当変化していることがわかる。「草（自生していないコマクサ）を抜き取る行為はやるな」と言われたことがあるが、よそから持ってこられて、育ったものは抜いていかなければならないと思う。そう考えると、山の形や見た目は変わらないが、中身が変わってきている。
- 『変わらないものの価値』『変わりながら付加価値がつくもの』を考えていきたい。この2つが次の世代にバトンタッチできる状態にあるかどうかの指標になる。
- 世代が変わる、ということを考えるときは、年齢の世代とは異なり、経済状態などのいろいろな要因を考える必要がある。

（高岸委員）

- 航空写真を見ると、道道京極倶知安線はこんなにもまっすぐだったのだ、と気づかされる。
- つまり、（河岸段丘などで）起伏があるから変化に富んでいることがわかる。

（辻井委員）

- 河岸段丘に格子状の景観は倶知安町の特徴的な景観の一つと言える。
- その中で、昔の河岸段丘の斜面緑地が残っていて、農地があり、また緑地があっての繰り返しは大事なポイントだと思う。
- 真狩などは羊蹄に向かって真っすぐに望む道があるが、倶知安町内にはあるのか。道路の真正面に羊蹄が見えるような。それがあれば大事にしたいと思う。

【町道西３号八幡線からの眺め】

（岩佐委員）

- 富士見橋からは正面に羊蹄山が見えるのではないか。道が続いているわけではないが。

（矢吹座長）

- （富士見橋付近は）羊蹄山のすそ野まで行ける道があるが車では行けない。道道京極倶知安線の交差点が限界である。

（大萱委員）

- すごく感動したのは、生産緑地（国道 393 号沿いの農地など）越しに羊蹄山が見えること。生産緑地や林の点在する風景が実に秩序だっていてバランスが良いと感じる。また、水の流れの跡に緑が残っているのがわかり、そのことが良いバランスを生み出しているのだと思った。普通はこういう

風にならない。

- 生産緑地が秩序だっている。また、自然によって生まれた色彩やまだら模様といったデザインが、倶知安町が持つとても大切な景観を形成していると思う。
- 町内の市街地住宅のデザインは、くっちゃん型住宅など工夫をされており、考え方は良いが、軒が出ていない建物ものが多く、水が上から壁を伝って落ちてきてしまうなど、時間や風雪に耐えられるのだろうか。古い建物をみると必ず一尺くらい軒を出している。それが出ているか出ていないかで建物の耐久性がだいぶ違う。
- ここは雪が多く雨が降る良い環境なので、木造建築の技術を部分的につきつめた姿が倶知安の土地に合っているのではないか。軒や門などの問題はあるが、ここを再考していくと良いと思う。

（高岸委員）

- 水源地の位置はどこか。自衛隊のところだろうか。（地図上の自衛隊の演習場を差している）
- 水源地はオショロコマがいた記憶がある。現在は立ち入り禁止だが、昔は自転車などで通ることができた。

（峠ヶ委員）

- 旭ケ丘公園が今日回った中で印象に残っている。天気が悪い中だったが、（公園の中で）一番利用している人がいたように感じた。
- 旭ケ丘公園には、駐車禁止や乗り入れ禁止などの様々な案内看板があった。看板がたくさんあるということは、自転車に乗っている人などもたくさん来ているのだと思う。
- 倶知安の地形が良く分かり、これから倶知安町の景観を考えていく上でわかりやすかった。

（矢吹座長）

- このコロナ禍だからこそ、人が旭ケ丘公園に来て散策やサイクリングなど楽しんでいるようだ。

（峠ヶ委員）

- しらゆき公園やさくら公園には、看板があまり見受けられなかった。看板がないということはあまり人が集まっていないのかと感じた。
- 自分の子どもはしらゆき公園で遊んでいるが、近所の子ども達が集まっている印象を受けている。わんぱく広場は土日によく子ども達が集まっている。

（高岸委員）

- 昔はもっとおもしろい遊具があった。親が危ない、けがをすると言って遊ばせなくなった。

（佐藤委員）

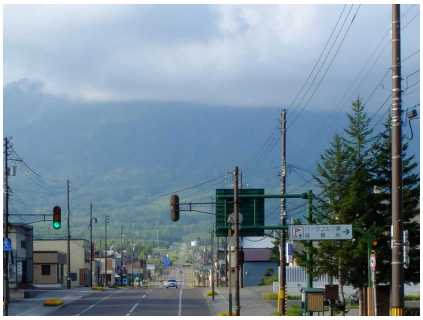
- 富士見橋周辺の道路が直線であったなら、ワイスホルンや羊蹄山、倶知安全体が真っすぐ見えて一番良い位置になるのではないか。
- 町道大通の西６号交差点付近で道路が曲がっているのが一番残念に感じている。このあたりに小さい公園があるので、もう少し整備すればいい場所になるのではないか。

（矢吹座長）

・　「山に向かっていく」道が、真狩にはある。

（山田委員）

・　喜茂別にも正面に羊蹄を望めるところがある。少し高い位置からの景色がきれいである。中山峠よりきれいだと言う人もいる。



【真狩村市街地から羊蹄山方向】

（古谷委員）

・　地域の人は、自分の家から望む羊蹄が一番きれいだと言うことが多い。

【喜茂別町相川から羊蹄山方向】

（矢吹委員長）

・　おらが村、おらが羊蹄と譲らない。真狩の人は、「（喜茂別から見た）あんなのは羊蹄じゃない」「これこそが羊蹄だ」と言う。対して喜茂別の人は、「中山峠が最高だ」と言う。こうなると、皆が黙ってしまう。皆思い思いのものがある。

・　将来、公園そのものがなくなった時、自分たちはどこへ行き、何を感じるのか？を考えると、山はいつでもそこにあり、自慢できると気づく。羊蹄山について言い合いができることこそが贅沢だと考える。

・　景観を阻害する様々な要因が出てくると思うが、時間がたてば周りに合ったものに変化する可能性がある。

（古谷委員）

・　ニセコ町の元町は、道道を拡幅したことにより街並みがきれいになった一方で、天気の良い日ですら誰も道を歩いていない。あんなに空しいものはない。人がいなければ、街並みも景観も成立しない。成立させるために、まず地域の人がどう活性化していくのかを考える必要がある。これが一番である。災害の歴史も、我々住民が食べたり、飲んだりすることも、悲しい事があったことも、全てがここに集約されている。

【ニセコ町　綺羅街道】

・　これが生活であり、人の生活は何よりも侵しがたいものである。強制されるものではない。まずはどう町民の生活が確立されるかが重要であり、人が生活できないような景観を考えてはいけない。それでは、地域が死んでしまうと思う。多額の金を投入しても、あんなものかと思ってしまうようにはなりたくない。

（矢吹座長）

・　鵡川と合併する以前の穂別において、化石博物館周辺の商店街の一部のまちなみをアースカラーに統一した。もともと鵡川に住んでいた人に話を伺ったところ、すぐそばに鵡川（河川のこと）があり、川を挟んだところに、今までと違う色の屋根の色の家があるため、住んでいる気がしないと言っていた。まちなみを統一した色で整備しうまくいったと思ってしまうが、つまり、将来を見越していない

ということだ。

・　「将来どうなるか」は予測がつかない。落としどころをすぐに見つけるのではなく、まずは皆さんの思ったことをお聞きしたい。

（山田委員）

・　昔の川の流れはどのようになっていたのか。

（矢吹座長）

・　昭和 23 年の航空写真に写し込まれているが、かなり尻別川は蛇行していた。これは上流ではあまり見られない。

・　段丘の部分は、川の流れで削られた箇所から木が生えての繰り返しでできたものだった。

（辻井委員）

・　農地の緑地帯に、川の形を記している部分がある。あばれ川や削られた跡ではないか。

（矢吹座長）

・　現在はまっすぐ流路をつくっているため、流れが安定している。有史前の羊蹄山の土石流が川の極端な蛇行を形成しているところが大曲である。

（岩佐委員）

・　川面を景観のなかに取り込むことが大切だと考える。

・　以前（尻別川の河川敷を）通ってみたが、川面が全く見えない。そのため、もう少し見えるような形にすることで、景観として目に入るようになるのではないか。山をバックにした大きな川がある、良い風景になると思う。そこを工夫できないか。

・　テニスコートの近くからリバーサイドに近づけるが、それ以外は植物によって何も見えず近づけないため、堤防を走っている、川岸を走っているなどという感覚がまったく湧かない。せっかくの良い川なのにもったいない。

・　（5 号線方面からダムにつながる尻別川側の道を差し）この道は砂利道になっている。しっかりと舗装をする必要はないと思うが、子供たちが蛍の観察などをできるような通りやすい道になるととても良いと考える。

・　サンモリッツ大橋はひらふへつながっていることから、回遊性もある。ここは、インバウンドだけなく町民も楽しむことができる道なのではないか。

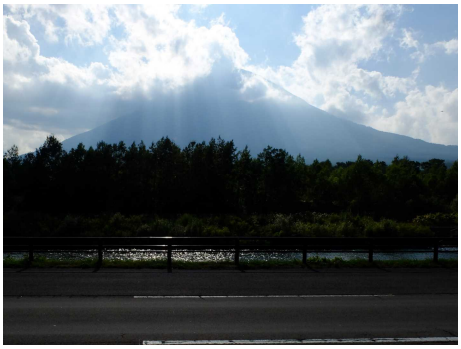
・　川が見えない景観というものにもったいなさを感じる。

・　サンモリッツ大橋に近づくと、（尻別川が）なみなみと水があり迫力を感じる。

・　木もあるため見えづらいが、何か工夫のしようがあるのではないか。

（古谷委員）

・　京極町には、「景観を考える会」という地域の活動団体が、国道 276 号の更新ビューポイントパーキングで、尻別川の河川敷の荒れた植物を処理して管理している。本来は川周辺の木は伐採してはいけないが、かまわず切っている。このように、「言う前にやる」という、行動を起こしている人たちがいる。
・　景観に関して意見を言うだけというのは嫌だ。関わっていくことでそこを愛するようになるし、熱くなる。言いっぱなしではなく、我々が活動者も引き込んでファンを作っていくのが大切だ。


【京極町更新から羊蹄山方向】

・　あちこちを見て回っただけで、まるで先生かのように言う前に、まずは活動するべきだと思う。
・　例えば花壇の草取りをするといったように、活動に参加することで思いは変わってくる。
・　災害の時に困らないよう側溝をきれいにする、といったことを、地域の人は皆やっていた。

（矢吹座長）
・　蘭越町の活動も活発だったように思う。

（古谷委員）
・　蘭越町は尻別川の清掃をやっているようだ。黒松内にもそういった仕事がある。

（矢吹座長）
・　この活動は今年だけではないため、フィールドワークとして活動することで関わっていくのも良いことだと考える。前段部分は気づきや思いをどんどん出してほしい。今は行政の取組に対する意見が出るのも良いことだと思う。「これまではこうだったからこうしなければならない」と考えていたことも、継承していくべきなのか、からだで覚えながら実践していくべきなのかなどが、検討の回を重ねていくごとにわかっていくと思う。
・　何かが必要だと言うのなら、自分たちが実験的にやってみる。そして、その成果を一か月や半年後などに検証してから提言してみることも、検討会議においては必要なことかもしれない。

５．その他

（事務局）
・　前回、各部会への本検討会議からの座長推薦者について決めさせていただいたが、市街地景観検討部会において、町内会関係からも部会員に必要ではないかということで、佐藤委員を追加で推薦させていただきたい。このことについては、座長及び佐藤委員の事前の承諾をいただいている。

（矢吹座長）
・　佐藤委員には、ぜひともご協力いただきたい。

６．閉会

（矢吹座長）
・　次回は９月下旬頃に開催ということで、後日、事務局より日程調整の連絡をさせていただく。

・　以上で、第２回の会議を終了する。

各委員が記した付箋の内容

【倶知安町全体に対して】

- 林が点在しているバランスが良いため、残していきたい。
- 町中に看板が設置してあったということは、人の営みがある証である。
- 倶知安町の No.1 景観は羊蹄山とワイスである。駅前通りが直線であればさらに良い景観になると思う。
- 農地も含め、全体的に格子状になっている地形が北海道らしさを感じられて良い。
- 生産緑地と点在する林、農家建築のバランスが素晴らしく美しい。
- 起伏に富んだ道が多い。

【田園や河岸段丘に対して】

- 作物をはじめとした自然による色彩デザインが、倶知安のもつ良いところである。
- 河岸段丘のみどりが田園風景のシークエンスの特徴になっている。
- 斜面緑地と農地が繰り返し現れる様子が印象的である。

【旭ヶ丘周辺に対して】

- 人の姿があまり見えなかった。
- しらゆき公園やさくら公園には人が集まらないのか。近所の子ども達がいるのは見かけるが、その他の地元民は遊んだことがないのだろうか。
- わんぱく公園には人が来ているようだ。

【市街地や駅前に対して】

- 彩りがない。
- 駅前通りが直線であれば良いと思う。

【住宅のつくりに対して】

- 市街地の住宅デザインは今一歩のところにある。軒先の長さが無いことに対し疑問が残る。
- 軒がない家は風雪に耐えられるのか？昔ながらの知恵や木造建築の技術を生かしていく必要があるのではないか。
- 倶知安の新しい住宅スタイルがどう進化していくのか楽しみである。

【河川やその周辺に対して】

- 昔、川の流れはどのようになっていたのか知りたい。
- 河川敷から尻別川の川面が木々で見えづらい。
- 川を景観に取り込むことが大切ではないか。
- （5 号線からダムにつながる尻別川付近の道に対し）子どもたちも通りやすい道になると良い。
- サンモリッツ大橋周辺が、回遊性のある道になると良い。
- （豊岡付近の蛇行した尻別川に対し）あばれ川の名残ではないか？

【羊蹄山や山々に対して】

- 景観は変わっていくものだが、羊蹄山だけはいつでもそこにあり、見ることができる。
- 自分が住んでいる場所から見る羊蹄山が一番だと言う人が多い。
- 「山に向かっていく」道があると、景色の良さをより感じられるのではないか。
- 羊蹄山が道路からまっすぐ見える道があるなら、そこを大事にしていきたい。
- 山の頂上が望める（山当て）道はあるのか。